

2022(令和4)年度事業報告

■ 中期計画 令和4年度 単年度目標に関する報告

I. 利用者ニーズ起点による既存事業の安定経営

【グループホーム】 (1) 「世話人・GH担当職員の支援技術向上」：評価【 A 】

グループホーム(以下 GH)の充実を目的として、世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、GH に所属する利用者と各担当職員を交え、GH の決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。今年度は特に、服薬管理体制の充実、体調確認方法の改善等を行い、日常のフォロー体制・健康管理の強化に繋げた。

【グループホーム】 (2) 「利用者の重度・高齢化対策」と「利用ニーズの増加」への対応』：評価【 A 】

『2つ目の包括型グループホームの検討』については、『利用希望者のニーズ聞き取り・空き部屋状況・将来の利用予測』の分析を行った結果、早急な対応の必要性は低いことが判明した。よって、2024年度以降に再度検討に入ることが望ましいとの結論に至る。また、9つ目のGH建設(女性専用2棟目)計画案も、同様に分析・検討した結果、2025年度以降になると結論づけた。

【入所施設】 「入所棟新設に伴う土地買収と建物新設」：評価【 C 】

土地買収については現在 仲介業者に依頼中である。今後も引き続き打開策を練る予定である。

【就労継続支援B型】 「新規の作業・商品・利用者の開拓」：評価【 A 】

① 新規事業の開拓と販路拡大・新商品の開発

新規事業として地域清掃の事業化を行った(令和5年度より本格的に始動)
また、販路拡大や新商品開発について定期的に検討会議を行った。

② 作業の質の向上

今年度は育成シート対象となる職員に対して100%実施ができた。

③ 機械化による高効率化

野菜班で機械化を実施するとともに治具を開発して作業効率の向上を図った。また、今年度はICTを活用した勤怠管理の導入に向けて業者から情報収集を行い、見積もり取得まで行った。(令和5年度に詳細検討予定)

④ 新規利用者獲得

新規利用者の獲得は行えたが、SNSを活用した情報発信が計画通りに行うことが

出来なかった。

【生活介護】「利用者の重度・高齢化に合わせた支援やプログラムの提供」

: 評価【 B 】

① 先進的な他施設の訪問計画及び、情報収集

今年度はコロナの影響で、予定していた他施設見学を実施することができなかったが、昨年の見学で取り入れた「個人目標達成シート」は継続して行い、個別支援計画にADLの目標を反映させた支援を実施することができた。

② 介護プログラムの確立：音楽療法カリキュラムの知識・技術伝承

今年度も引き続き音楽療法士を招いての音楽療法活動を実施。技術を学び、普段の音楽活動にも取り入れることで、利用者の活動への意欲や普段参加の難しかった利用者の参加にも効果が見られた。

③ 新規創作作品の開発・販売

普段の創作活動の中から利用者の能力開発を進めていき、コンセプトを「利用者の描くイラストや模様などを活かした小物作り」に絞り、新作をバザーで試作販売した。次年度は作品の精度を上げていきたい。

【就労移行】「認知度向上・就労移行カリキュラムの充実・就労機会の確保」

: 評価【 C 】

① 就労移行事業のアピール強化による新規利用者の獲得

ハローワークの訪問や高等支援学校に対して利用者獲得を図ったが、利用者の獲得には至らなかった。SNSを活用した情報発信が計画通りに行うことが出来なかった。

② 就労カリキュラムと就労支援員の育成

先進的な事業所に実習に行き、多機能での就労移行の取り組みを学んだ。また、就労カリキュラムを完成させた。

③ 実習先の確保と就労先への定期的な訪問

実習先の情報収集はハローワークなどを通じて行ったが、実習先の選定にまでは繋がれなかった。既存の就労先には定期的に連絡、訪問を行い情報交換やコミュニケーションを図ることができた。

II. 人が育つ組織づくり

「職員定着プロジェクト」の立ち上げ : 評価【 B 】

① 組織風土診断や定着者・退職者の分析

今年度は組織風土診断が未実施だった。毎年継続して行い、職員の満足要因・不

満足因子を分析した上で、効果的な具体策を検討できるようにする。

② 管理職と職員の対話促進

計画していた面談は概ね実施できた。また、面談に主任が同席し、面談者に対して課題を抽出する為の視点や考え方などOJTを行った。

Ⅲ. 計画的な新規事業の創造

(1) ネット販売プロジェクトチームの立ち上げ：評価【 A 】

モール型 EC サイトと独自店舗型の EC サイトの相違点、その中でも特に今年度は独自店舗型 EC サイトについて基礎知識を深堀り（モール型 EC サイトは昨年 調査済み）し、メンバー間でサイト特性を共有した。次年度はどの EC サイトを選択するのか決定し、EC サイトを立ち上げる計画である。

(2) 新店舗立ち上げプロジェクト：評価【 D 】

2022年4月と7、8月の新型コロナウイルス感染症の蔓延が大きく影響したため、赤字が続き、検討した結果、2022年12月にて店舗を閉鎖した。

各委員会

(重点目標に対する事業報告)

委員会名	2022年度重点目標	事業報告
支 援	・書類作成期限の徹底 ・加算請求チェックの徹底	・書類の作成・提出に若干の期限遅れはあったが、監査でも大きな指摘もなく問題の無いレベルで管理できた。加算請求チェックも問題なく進めることができた。
生 活	・役割分担の徹底 ・生活環境改善のための意識向上	・居室整理日を設定し居室清掃、確認を徹底することで各居室の美化に繋げることができた。役割に関しても個々で責任持って取り組みメンバーの共有に努めた。
作 業	・作業環境整備の推進 ・各作業班製販計画の達成	・各作業場の整備は適宜実施する事が出来た。製販計画の達成率について、作業班全体で計画に対し98%の結果となった。今年度はコスト面での意識向上や製販会議で各作業班との情報共有に努めた。
地 域	・各バザーのフロー表に基づいた計画の実行とフィードバック	・年度後半はコロナの影響も少なくなり、ナイスハート、ノウクマルシェ等のイベントも開催された。久しぶりの参加となったが、特に問題もなく無事参加することが出来た。
事 務	・業務効率化の推進 ・円滑な連携(各部署、事務所内)の遂行	・業務分析を行い、日常業務での効率化には取り組めたが全体の効率化には至らなかった。また、事務所内外の情報共有や連携が不十分な為、今後意識的に取り

		組む。
炊 事	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズへの対応 ・衛生管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の食事について改善が必要な場合は、保健委員会と連携を取りながらその都度対応することが出来た。食事中の感染予防の為に座席の配置や消毒の徹底など様々な工夫を行った。
職場改善 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境推進 ・職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入職員への説明や新人研修などは問題なく実施できたが、個別テーマ研修が実施できなかった。テーマについては今後 充実したものになるよう工夫し実施していきたい。
職場改善 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・年間目標の確実な実施 ・職員育成体制の充実 ・職員必携の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき確実に実施した。育成については行動チェックリスト面談を作業責任者同席で実施し情報共有を行った。職員必携の理解度を深めるために朝礼での朗読、レポートの提出を計画的に実施し、今後も継続していく。
人権擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の確実な実施 ・情報共有の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて活動を行い、結果については速やかに共有した。また、外部講師研修を実施し虐待防止への更なる意識向上を図ることが出来た。
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との深い関わりの継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・班会や地域清掃に参加し、地域の方との交流を図り、関係作りの構築を図った。また、地域の川上小校区スクールゾーンの草払いや川上小学校の剪定・伐採作業を行った。
行 事 A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事計画の早期立案、フロー作成 ・明確な役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を基に行事計画を立てた。コロナ感染拡大によりキャンプは中止とした。新年会においても同様に中止となった。代替行事として抽選会を計画し実施した。
行 事 B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事の把握と早期立案 ・話し合いの効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により予定行事を実施することが出来なかった。また、代替の食事会も出来なかった。来期は新型コロナウイルス感染症の様子を見ながら、実施可能な行事を検討する。
行 事 C	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のフロー再確認 ・早期計画、早期周知の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーベキューや忘年会の代替行事として食事会を計画したが、コロナ感染拡大により中止となった。来期も年間計画に沿って早期計画、メンバー間の情報共有を徹底し、より良い行事にしていけるよう努める。
入所・GH 旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しめる企画の立案 ・早期準備、計画、話し合いの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による影響で年度を通して企画を実施することが出来なかった。来年度は実施に持っていきたい。
広 報	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の確実な実行 ・情報発信の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・予実管理表を活用し、SNS・ホームページにて情報発信することができた。SNSに関して分析が不十分な点もあったが、より良い情報発信に向けてメンバー内で分析、共有を行うことに努める。
総 務	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく働きやすい職場環境作り・連続休暇取得(4日)の推進と確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しの良い雰囲気作りを心掛けたが、各作業班に任せきりになり、総務として自覚(リーダーシップ・声かけ)が不十分であった。 ・4日連続休暇取得(年2回)の推進は達成できた。
保 健	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康状態の把 	<ul style="list-style-type: none"> ・入所、GH に対する健康状態の把握がコロナ禍も影

	握 ・健診、検査をスケジュールリングし実施	響し、確実に実施出来なかったが、通所に関しては毎月実施し作業班や保護者との連携も行えた。今年度から 30-39 歳の若年者健診を実施し、生活習慣病等や病気の早期発見を行った。
--	--------------------------	---

作業班別

(重点目標に対する事業報告)

作業班名	2022年度重点目標	事業報告
NODOKA	<ul style="list-style-type: none"> ・集客率アップ ・料理開発 ・接客サービス向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上達成。コロナ禍が厳しい中、感染防止対策をその都度問題なく接客スタッフが対応し情報共有できた。又、新メニュー開発(テイクアウト等)と実行に移すことができた。今後、イベント等、店舗で出来るアクションを増やせるよう取り組みをしていきたい。
ベーカリー楓	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・利用者新商品の確立 ・ブランド強化の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上達成。コロナ禍でイベントや販売関係の中止があったが、イベントに可能な限り出店することで新たな集客や売上に繋げることができた。まだ課題である楓のブランド力強化 及び SNS 等の宣伝を今後も積極的に行っていく。
竹 工	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・職員のマルチスキル化 ・利用者の適材適所推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・育成シートは職員 2 名に対して予定通り進められた。利用者の適材適所は、額縁作業や日之出作業の未習得工程のトライアルを実施し利用者の能力開発を推進できた。また、職員は、額縁作業の全行程の習得を目指し、各自マルチスキル化を図った。
蔬 菜	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・栽培工程のマニュアル化 ・地域住民との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に対し未達であった。9月に台風による作物被害があったが、来期は出来る限りの対策を行い、売上確保に繋げる。育成シート活用による対象職員の作業技術定着が確認出来ている。栽培工程のマニュアル作成を来期も行い、班全体で栽培技術の習得を図る。
メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・作業フロー作成 ・研修カリキュラム確立 ・作業メンバーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上計画に対し未達。コロナ禍により作業中止や延期が主な要因として挙げられる。作業フローは、優先順位の高いものから順次作成した。人材育成に関しては、OJT 中心の育成となり、研修カリキュラムに沿っての育成が不十分だった。来年度の重要課題として取組む。
陶 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・売上達成 ・絵付け作業の人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・売り上げは目標額に対し大幅に上回る事が出来た。絵付けの人材育成練習は年間スケジュールに基づき計画通りに進める事が出来た。
施設外就労	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援の強化 ・関係機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援について、職員それぞれで統一した意識を持って挨拶・身だしなみ等の向上を行った。公園清掃は市役所、地域清掃では共同受注センターや川上小、ユーマー等と連絡調整を行い、新規作業に取り組む中で施設外就労の作業の充実を図ることが出来た。

味噌	・味噌作りの人材育成 ・生産、行事等への早期計画	・在庫管理の徹底とお中元・お歳暮の売上アップ等で計画を達成することが出来た。育成や生産の点では人員不足やコロナ関連で計画通りに進めることが出来なかった。
生活介護	・新規創作作品の決定	・普段の創作活動の中から利用者の能力開発を進め、コンセプトを「利用者の描くイラストや模様などを活かした小物作り」に絞り、作品をバザーで試作販売することができた。次年度は作品のブラッシュアップを行い、精度を上げていきたい。

2022年度 各作業班 達成額

作業班	2022 計画	2022 年度 達成額	達成率
蔬菜	4,880,000	4,320,000	88.5%
楓（菓子班）	18,380,000	18,700,000	101.7%
NODOKA	7,150,000	7,300,000	102.1%
メンテナンス	23,600,000	22,860,000	96.8%
竹工	2,750,000	2,600,000	94.5%
陶芸	690,000	770,000	112.3%
施設外就労	1,520,000	920,000	60.5%
味噌	134,000	1,360,000	101.5%
介護（その他）	90,000	130,000	144.5%
合計	60,400,000	58,960,000	97.6%

（* 下4桁は切り捨て）

* 参考（年度別 達成額一覧）

作業班	2018 達成額	2019 達成額	2020 達成額	2021 達成額
蔬菜	4,620,000	4,060,000	4,280,000	4,760,000
楓（菓子）	17,250,000	17,440,000	16,410,000	17,230,000
NODOKA	7,150,000	7,870,000	7,640,000	7,820,000
メンテナンス	21,800,000	22,510,000	21,910,000	22,350,000
竹工	3,750,000	3,170,000	2,870,000	3,910,000
陶芸	970,000	1,590,000	680,000	700,000
施設外就労	1,300,000	5,070,000	5,170,000	3,990,000
味噌	1,400,000	1,370,000	1,430,000	1,370,000
その他	1,200,000	1,000,000	150,000	100,000
合計	59,420,000	64,080,000	60,540,000	62,230,000

各サービス別の月額平均工賃

		R3年度	R4年度
旭福祉センター	生活介護	5,459	5,777
	就労継続B	26,229	27,634
第二旭福祉センター	就労移行	20,977	23,117
	就労継続B	25,674	25,478
センター 全 体 平 均		19,701	19,826
一般就労者平均		87,405(6名)	102,969(6名)

※参考：B型全国平均工賃 16,507円（R3年度実績）

実習受入実績 他データ

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
福祉学 習受入 (川上小)	—	92	98	94	90 (川上小体育 館で実施)	90	93
保育士 実習受 入	4(3校)	11(3校)	4(2校)	4(1校)	1(1校)	1(1校)	5(1校)
特別支 援現場 実習	8(3校)	8(3校)	14(4校)	11(5校)	12(4校)	21(5校)	13(5校)
新規入 所者(新 規通所)	2(4)	3(2)	1(3)	1(3)	1(4)	2(6)	1(2)
就職者 を除く利 用者数	89	90	92	88	95	96	98
就職者 数(就労 移行)	4	4	5	6	6	5	6

(その他)

職員研修の充実

令和4年度は、施設内において年間 8 回(新人・中堅・人権擁護・清掃メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上や、社会性・道徳・倫理的な要素を取り入れた研修等を行った。また、外部研修についてもコロナ禍であるが、オンライン研修等も含め、計 36 回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

福祉教育

令和4年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ・ 保育士実習 5名（1校）
- ・ 特別支援学校現場実習 13名（5校）
- ・ 福祉学習 93名（対象：川上小4年生）

2022年度事業報告 以上